



国公立の全大学、私立大学の9割が採用している『大学入学共通テスト』が終了しました。本校の3年生の144名が挑み、朝から晩までのハードな2日間の日程をそれぞれの目標達成に向けて頑張ってくれたものと思います。今後は自己採点やデータリサーチ等を経て、出願検討・出願ということになります。また、私立大学の本格的な一般入試も始まります。また、すでに一昨日から講座制の授業も始まっており、最後の最後まで頑張ってもらいたいと思います。一日一日を大切に頑張らしましょう。なお、今回は共通テストについての現時点での情報をまとめましたので参考にしてください。また、1・2年生は、この時期の臨場感を感じ取って進路を固め、来年・再来年に向けた展望を描いて欲しいと思います。

★R6 共通テストの概況★～5教科平均点はアップ。特に数学2科目は20点程アップ～

予想平均点が大幅にアップしたのは、前年度に平均点が大幅ダウンした数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、日本史Bなどが大幅アップしたことに加えて、理系ではほぼすべての受験生が選択する理科②の化学が得点調整によるアップも含めて6点以上もアップしたことが要因でした。次に主要科目の平均点を前年度の最終集計での数値との比較を見ていくことにします。受験者数が1万人を超える主要科目で平均点がアップしたのは、数学Ⅱ・B 18.4点)、数学ⅠA(+17.7点)、日本史B(+6.9点)、化学(+6.4点)などでした。一方で、平均点がダウンしたのは、倫理、政治・経済(-9.1点)、英語リーディング(-8.0点)、世界史B(-7.4点)、政治・経済(-5.8点)等でした。数学ⅠAの得点率については、前年度は38.0点で4割を割り込みましたが、55.7点と5割を超える得点率になりました。それでも数学Ⅱ・Bよりは低く、6割には達しませんでした。次に、5教科型900点集計の得点帯ごとの得点変動をみると、文系、理系ともにすべての得点帯でプラスとなっています。文系では今年度の630点～735点は前年度の600点～700点にあたり、前年度よりも約30～33点プラスとなっています。理系では、今年度の625点～745点が前年度の580点～700点にあたり、前年度よりも約44～47点プラスとなっています。以下教科ごとの概況を示します。

＜共通テスト平均点＞

教科	科目	満点	全国平均点	本校の平均点
国語		200	115.70	95.70
地理歴史	世界史B	100	63.03	38.60
	日本史B	100	58.06	48.60
	地理B	100	68.38	58.30
公民	現代社会	100	57.44	51.70
	倫理	100	57.09	49.70
	政治経済	100	46.02	43.70
数学	数学ⅠA	100	54.35	34.60
	数学ⅡB	100	61.03	39.30
理科①	物理基礎	100	30.91	16.30
	化学基礎	100	28.91	21.50
	生物基礎	100	32.71	30.70
	地学基礎	100	36.71	35.40
理科②	物理	100	64.38	49.40
	化学	100	56.86	38.80
	生物	100	55.72	42.00
外国語	英語R	100	53.28	35.90
	英語L	100	68.50	52.10

■国語：推敲や鑑賞などの「言語活動の充実」を意識した設問が出題された。

全大問で複数のテキストが提示され、全体の分量はほぼ昨年並。第2問問1、第4問問1などの知識事項を問う設問が出題された一方で、第1問(問6)の〈推敲〉、第4問(問6)の〈鑑賞〉など、「言語活動の充実」を意識した、応用的・発展的な思考力が求められる出題が全大問で見られた。昨年と同様、近代以降の文章2題、古文1題、漢文1題という構成であった。

【問題量】 第1問は3900字、資料1点。第2問は3000字、資料1点。第3問は1100字、資料1点。第4問は詩が31字、【資料】が157字。

【難易度】 昨年より易化

■数学ⅠA：三角比の表を利用する現実事象の問題が出題された。

第1問〔2〕「図形と計量」では、太陽高度などを利用して、電柱の高さやその影の長さを求める現実事象の問題が出題された。第3問「場合の数と確率」は、昨年に引き続き、前の設問の求め方などを利用して解いていく問題が出題された。解法の方針が立てにくい問題が多く、昨年より難化。

【出題分野】 昨年と同様で、特定の分野に偏ることなく幅広く出題された。「集合と命題」からは今回は出題がなかった。

【問題量】 ページ数は25ページ（下書き用紙を除く）で、昨年より2～3ページ増加した。

【難易】 昨年より難化

■数学ⅡB：本試験で初めて「式と証明・複素数と方程式」を主題とした問題が出題された。

第1問〔2〕は、「式と証明・複素数と方程式」からの出題で、条件から何が導かれるか、論証の正確な理解に関する目新しい設問があった。第2問「微分法・積分法」は、定積分と面積に関する本質的な理解が問われており、後半は抽象的な設問が続くため、取り組みにくかったであろう。

【出題分野】 特定の分野に偏らずに幅広く出題された。本試験において、初めて「式と証明・複素数と方程式」を主題とした出題があった。「三角関数」からの出題はなかった。

【問題量】 ページ数は21～23ページ（下書き用紙を除く）で、昨年より1ページ増加した。

【難易】 昨年よりやや難化

■英語R：様々な場面や状況に応じた題材が取り上げられた。文章量は増加して戸惑う受験生も・・・

題材は昨年同様、日常的な文章や説明文など様々なものが扱われた。設問では出来事の順序を問う問題や、プレゼンテーションのスライドを完成させる問題などが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理する力が求められた。文章量は増加したものの、難易は昨年並であった。

【出題分野】 実際のコミュニケーションの場面を意識した、多岐にわたるジャンル・形式の出題。概要の把握や複数情報の整理・比較・判断まで多面的な資質・能力が求められた。

【問題量】 素材文語数は、昨年から約400語増加（約4500語→約4900語）

【難易】 昨年並

■英語L：昨年同様、場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。昨年よりやや易化

昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題された。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題もみられたが、全体的に取り組みやすかった。

【出題分野】 日常的な発話から説明文や四人の話者による会話まで、多岐にわたるジャンル・形式の出題。概要の把握から複数情報の整理・比較・判断まで多面的な資質・能力が求められた。

【問題量】 流れる音声の総語数は昨年よりやや増加。

【難易】 昨年よりやや易化。



■理科：全体的に昨年度よりも易化した科目が多い。平均点アップに繋がったか？

生物基礎 知識を活用する力、実験結果を論理的に考える力、グラフを読む力を問う問題が出題され、基本的な知識そのものを問う問題も見られた。昨年と比べ、全体のページ数や文章選択問題は増加したものの、正解に至る上で考察する要素が少なくなり、正解選択肢も判断しやすいものが多かった。昨年度より易化

化学基礎 第1問では、昨年同様に基本的な問題が小問集合形式で出題された。グラフを読み取り計算する、思考力を要する問題があった。第2問では宇宙ステーションの空気制御システムにおける化学反応が取り上げられた。反応の量的関係について、反応式の係数を利用する問題が複数あった。難易は昨年並。

物理基礎 ジャガイモを水中に沈める実験を題材に上下二つの計りで得たデータをもとに浮力に関して考察させる問題や空気中の音の速さを三つの方法で測定し考察させる問題など探究的な出題がなされた。LED電球の変換効率を推定する問題は、今日の環境エネルギー問題を意識させる。難易は昨年並

地学基礎 第2問では、台風が接近した際の天気図を日付順に並べる問題が出題された。第4問では、海底火山から噴出した軽石の漂流の様子から二つの海流の速さの違いを考える問題が出題された。基本的な知識、時間的・空間的関係の理解、思考力・判断力を問う幅広い問題が出題された。難易は昨年並

物理 ペットボトルロケットの運動、金属線を用いた弦に交流電流を流したときに生じる弦の固有振動、導体紙上に生じる電場など、設定の把握に時間を要する探究的な問題が出された。太陽の中心部にある原子核を題材として、原子核1個あたりの運動エネルギーを問う問題は目新しい。難易は昨年並

化学 文章を読み解く問題、図やグラフを読み取る問題が数多く出題され、読解力と思考力を要した。教科書では扱わないアスタチンの性質、ニッケルの製錬法に関する問題が出題された。また、医薬品に関わる内容を題材にした問題が数多く出題された。質量分析法によるデータの読み取りを題材にした問題は目新しい。昨年より易化

生 物 全6大問必答で、昨年と同様、複数の大問で分野融合問題が出題された。与えられた情報を踏まえて初見の実験結果を予想したり、分析したりする問題がみられた点は昨年と同様であったが、問題を解く上で処理する情報量は減少した。昨年より易化。

■地歴公民: 全体的に昨年度よりも易化した科目が多い。平均点アップに繋がったか？

世界史 B 大問数は5から4に減少し、解答数は34個から33個に減少した。連動型の問題が出題された。昨年と同様に文献資料やグラフが多く出題され、基本的な知識と組み合わせて考察する力が求められた。難易は昨年並

日本史 B 大問数、解答数に変更はなかった。8世紀から明治にかけての印刷の変遷、古代の食物や調理道具など、日常生活に関するトピックから出題が展開。文章資料に加え、統計グラフ、写真など多彩な資料を通じ、読解力が引き続き求められた。受験生が苦手とする、時期の判断を要するものに加え、知識の定着を前提にした出題も多く、昨年よりやや難化

地 理 B 地図や統計表、写真などを含む多様な資料が用いられ、限られた時間のなかでの図表読解力と地理的思考力が問われた。基礎的な知識をもとに判断できる問題も多く、知識と現実の地理的事象を結びつけて定着させている受験生にとっては考察しやすかったであろう。難易は昨年よりやや易化

倫 理 大問構成や出題分野は昨年同様であった。組合せ問題では8択が大幅に増加し、7択、9択も昨年同様出題された。知識や読解力、判断力などを組み合わせて問う多面的・多角的な出題が増加したため、受験生は解答に時間を要したであろう。難易は昨年並

政治・経済

「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。経済分野からの出題が増加し、国際政治分野・国際経済分野の出題が減少した。全大問において、文献・判決文・統計・模式図などの多様な資料を読み解く力や、計算が求められる出題が目立ち、差がついたと思われる。昨年より難化

★国公立大・個別試験の出願★ ～併願プランを立て、赤本で対策を！～

共通テストが終わると、国公立大は、前期日程・中期日程／別日程(公立大のみ)・後期日程の個別試験が行われます。なお、個別試験の対策は、大学ごとに異なります。進路指導室にも一定数の『赤本』がありますが、必要に応じて過去問を入手(自分で購入またはHPからダウンロード)し、出題傾向を掴むことが必要になります。

■2024年 国公立大一般選抜日程のスケジュール

	前期日程	中期日程(公立大)	後期日程	
1月22(月)～ 2月2日(金)	個別(2次)試験出願			
～2月7日(水)	第1段階選抜の結果発表	↓	↓	
～2月18日(日)	↓			第1段階選抜の結果発表
2月25日(日)～	前期日程試験	↓	↓	
～2月28日(水)	↓			第1段階選抜の結果発表
3月6日(水)～ 3月10日(日)	合格者発表 ※公立大前期は3月1日～			↓
3月8日(金)以降	↓	公立大中期日程試験	↓	
3月12日(火)以降		↓		後期日程試験
～3月15日(金)	合格者 入学手続き	↓	↓	
3月20(水)～ 3月24日(日)	↓	合格者発表	合格者発表	
～3月27日(水)		合格者 入学手続き	合格者 入学手続き	
3月28日(木)～		追加合格者発表・欠員補充・第2次募集出願受付・試験		



★私立大学への対策について(1・2年次生たちへ)

私立大学の対策については、国公立大学二次対策と同様に赤本を中心に臨むこととなりますが、例年、取り組むタイミングが遅いように思います。今年も共通テスト終了後から慌てて取り組む生徒が目立ちます。私立大学に関しては、志望大学の過去問については、共通テスト終了後からではなく、事前に傾向を掴んでおかなければなりません。大学ごとに、出題パターンや難易度が異なりますので、遅くとも11月半ば頃迄には目を通して置いて欲しいと思います。



●一般入試で挑戦する受験生たちへエールを送ります！



共通テストが終了して、これから私立大学を中心とする一般入試のピークに入ります。共通テストで思うような点が得られずに私立大学の独自入試に挑戦する人、判定のリサーチが悪くて第2希望や第3希望に回った人、進路が決まった仲間たちを横目に見ながら、焦りと緊張感、大きな不安を抱いている人などが多いかと思います。一般入試で勝負をする人にとっては今が一番辛い時期です。あと1ヶ月で何ができるのだろうか？あと2週間じゃ何もできないんじゃないか？これからやって学力は伸びるのだろうか？しかし、悩んでいる時間はありません。今は真っすぐに進むしかありません。講座制課外になってから、毎日登校しているメンバーは全員が一般入試で戦う同志たちです。みんなが同じ気持ちで毎日頑張っています。泣いても笑っても、あと少し！もし、目標が達成されたならば、その喜びは総合型選抜や推薦型選抜による合格の比ではありません。そして、一般入試で受験を突破したことは、今後の人生においての大きな自信になります。今は、とにかく前だけを見て頑張れ！最後まで頑張るみなさんを最後まで応援します、サポートしなす！



●進路決定(内定)をした人たちへ！



すでに進路が決まっておき、あとは卒業式を迎えるだけ、自動車学校を卒業するだけだなんていう人も多いのではないのでしょうか？本当に大丈夫ですか？もちろん、進路が決まっている人の中には、少しでも学力を身に付けて卒業しようと頑張っている人たちもいます。本来、早期決定者の全てがそうあるべきだと思いますが、残念ながらそういった人たちは、ほんの僅かです。最後まで手を抜かず頑張ることを条件に推薦や指導をもらったはずなのに、何か大きな約束を反故にされた感じがします。先生方がどんなに皆に促しても、入学までの残り2カ月をどのように過ごすかは一人一人の心構えにかかっています。適当に遊んで過ごした場合、一般入試で入学してくる同級生たちとは大きな学力の差が生じていることでしょう。総合型選抜や学校推薦型選抜で入学してくる生徒の学力が低いと言われたいように、各自4月以降に備えて欲しいですね！



●本気の志望校の赤本は買きましょう！



赤本は一般入試の過去問題です。学校では皆さんが受験しそうな主な大学の5年分程度の過去問を見ることができですが、基本的には第一志望の学校については自分で購入して欲しいと思います。赤本を見ながら問題を解いている生徒が多く見られますが、それでは使いにくいですよ？書き込むこともできませんので、やはり購入することをお勧めします。人気のある大学は複数の生徒が借りたい状況にあるにも関わらず、特定の生徒が返却しない為に借りることができずに困っています。他の希望者のことも考えて使用して欲しいと思います。尚、過去問については意外と多くの大学が公開しており、過去3年分程度は各大学の公式HPからもPDFの形でダウンロードできるようになっているところが多いです。1・2年次生は、全員個人の端末(PC・タブレット)を持っていますので、データとして保存していつでも見られる形にすれば使いやすいのではないかと思います。そのような活用法もあるということ覚えていて欲しいと思います。

次回予告 第17号は3月15日に発行の予定です。また、卒業生の進路決定状況と次年度に向けての準備や取り組んで欲しいことについてお知らせします。